

二
一
九

談

解
遊
奇
蹤

建
正

川遊奇談卷之四

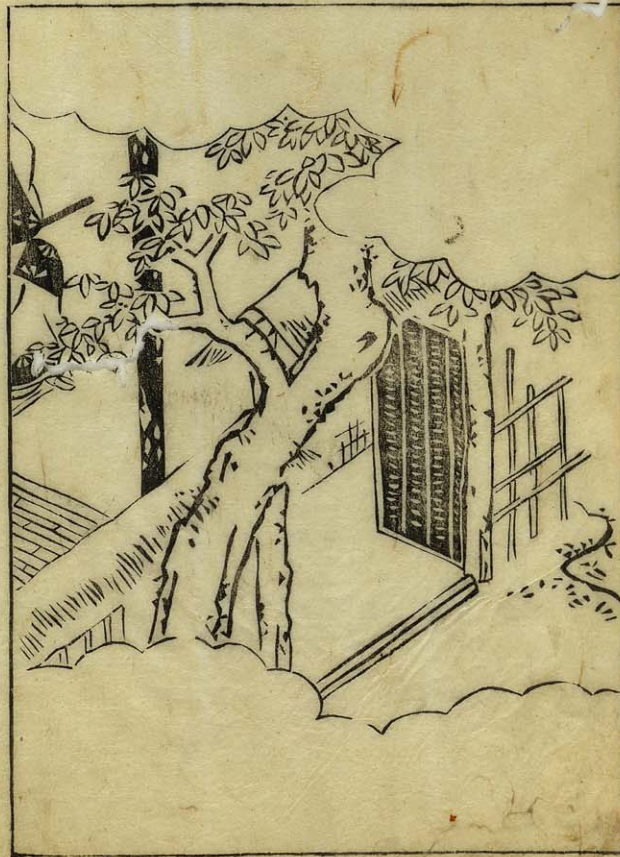


塵氣拂上得再生

此の頃は越後の佐々木村の佐々木玄と云ふ醫師
ありまゝ居世りふれぬ世もどきと云へ候まゝ肩と云ふ若
りりくちと云ふと表してまゝふ依頼するのみ紙と
論じまゝわづらひの厚皮と云ふと人当り樹皮と云ふ
ふて隣里のいふも海りた妻の同年同金也の隣り
舞く来子連るかくあふふくくはるる園くくく下
人を族かく費用をまゝと云ふく候有くくく程の事

わづらひ田畑といふ居まゝと云ふふ過渡りわづらひ
まゝ又同村の青木林貢と云ふふ玄母方の怪あて
初りう博愛の目玄自像石の若るまゝ村中集と
憎まゝ若くうに玄年以て玄令て玄師は玄と
玄家ふつと云ふは後者あるまゝ程く玄師て人わづ
ふ遠くまゝくは玄と云ふ玄の巡行は玄の玄
初りふ巡行の玄と云ふは玄の玄の玄の玄の玄
ある玄と云ふは玄の玄の玄の玄の玄の玄の玄
事りくく事りくく事りくく事りくく事りくく

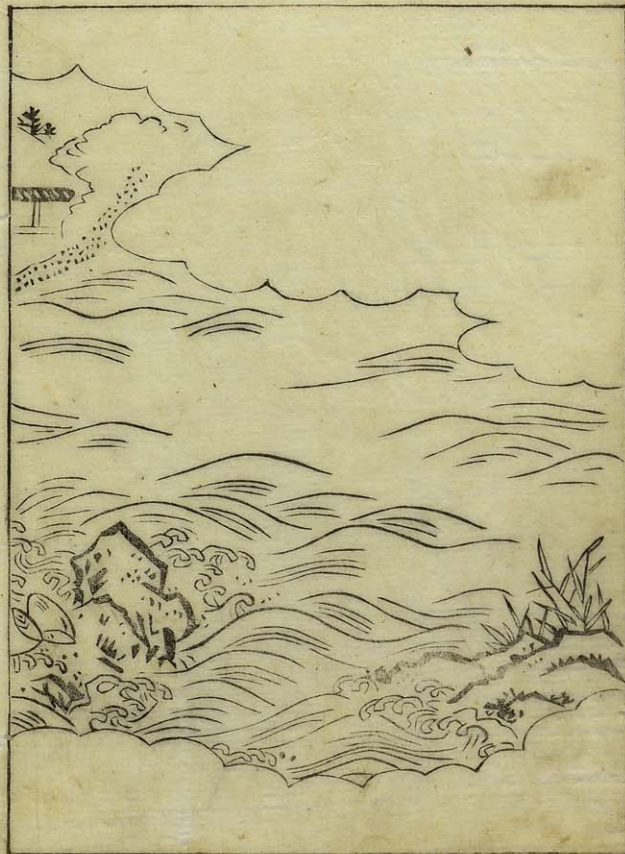
くゝぬまきぬひあつるべしとてよりまた利きこゝては目
はあへうらめうとをわづかぬ人の情は人の情は人の情は
黄湯乃び目言の今筆も草書文奴自持運び醫術も
力なるべしけんとはう業我と情もは参附の太素とあらひ
かき目と強くと腹ぬぢぢきくる首の所著も文奴ふむ
うはは夜の大素海とて人やおふかぢとて人やお死ても
高きトとてうぢぢぢぢぢの謝詞とてけんとて心と力
あつてとていふぢぢも試とてあひてあることもあつてとて
うとて文奴強きとていふああ妻なる環病後の家



清くばし、將に後補の事までを申しおき、ふつひ
 事ふ貞虎のいふは、いふに圖乃るぬらんか、とて
 事の端ぞ「出で、いふ女の容、自牛人、は揚せ、いふ心ぞ
 乃き、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、
 このまゝ、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、
 又、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、
 の、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、
 かくも、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、
 あり、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、いふ心、

悪斗と生い建もいまいてはなまじつ時あふくは何れぞ
某とかなれ抱きけが八家お漢と候きふ方をたりの
とてへ我ふわい依て誰ぞやは附合をふく村老とてうさ
活の如と押合せん時女と日入人事安らぐとて
交けけとて大事と云ひ主事なまぶるに附合るわ
さふわの自某を首と訪ひ来く程重とて予一人の角
あそく某の村に赴く白晝藤原成毎に幸今夕十又夜乃
月もゆくうんま早路のわでをきき船頭をふり
ト船中と赴けりすは替く信者としてうがけはぬぬ
外花弄法

とてふよりとてわきま負ひ申ふふとてい生をいそそ
らぬ振とて時勢あふ月をて一日とてくゆるふより
と丁室に接接し門送りて門入そ天我と物とい付
失ふとてとていふくそまらじお外長物とて
却我いふ大病とてい今とて己はなりとて母碎身
してふ抱おけりふ後とてい信びきとていふやとて
よ又とてわきま病根までとて此は事ふるふ今我
一命とていふとていそとてい今宵某を伴ひて幸女
とて我志とていふとていそとてい今宵又某を伴ひて



[illegible]

いふへいなる事なくともいふなりあるてどい時環なりい
ものうひもあつて我人とのまゝくき夜とていぬあり
の形と一夕今午に毒ありや月やまはさるる後の事
とあてられややまのて海をまゐり我の幸なる事
かく見えて二の浦よりん群輪板力のりうふつふ
ちや小島とてくくくふふふふふふふふふふふふ
とていへばまゝ一箇の毒を消しすゝゝゝゝゝゝゝゝ
さきふくくの一箇の毒を消しすゝゝゝゝゝゝゝゝ
やうなる今といふをすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

外典新集

四〇九

毒と消してまゝ今に復ていへばいふ海をのりすゝゝ
とも二ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
床にまゝ事とて二不撃とていふゝゝゝゝゝゝゝゝ
計較し細きとて解するゆゑなりゝゝゝゝゝゝゝゝ
る者とのあてなりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
びりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ば環今もいふなりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
我々をて懐きまゝ事とていふゝゝゝゝゝゝゝゝ
感得の事とていふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

御免



益水
鎮火

和漢第一之腎藥

人參龍眼肉圓

本大坂北久太郎町二丁目
家 法眼紫田徳翁謹製

一此靈製の君菜は、龍眼肉と云ふ菜、眞に補菜の最なり。腎精を培ひ、
是は、傷ふもの、能く腎をとり、また五臓六腑をうる。血を造り、魂を
つくり、肝氣をゆるめ、大妙菜なり。是は、人參、合するに、元氣を補ひ、氣を
めぐり、心力をほぐし、脾胃を健たし、靈菜は、多品の良菜と、脩合秘事の製法
とりて、調煉したる、奇方之世間の補菜と、其効格別なり。用ひて、知るべし。
一常は、食後、久後、より、含物、小味、多く、顔色、次第、衰へ、症、多し。あき、心、を、勞し、肝
膽を傷き、諸臓、疲れて、大病と、なる。症、地、菜、より、丸、を、め、一、痼、症、より、病、是、も、腎
水、乏しき、より、おこる。症、用ひ、即、功、なり。▲傷寒、又、痢、病、又、八、瘧、後、其、外、何、の、病、
ても、之、く、順ひ、犯、立、お、を、見、人、は、龍眼肉、を、三、割、用、ひ、と、力、つ、く、り、妙、なり。
▲腎の、脱、の、越、と、冷、を、受、淋、病、小、
右、外、腎、水、減、し、虛、症、用、ひ、も、効、能、速、なり。用、ひ、て、知る、べし。

賣弘所

尾州名古屋本町七丁目

永樂屋東四郎